

ドニゼッティの肖像画



1817年、ベルガモに戻ったドニゼッティは、弦楽四重奏やピアノ曲、宗教曲を非常にたくさん書きながら、作曲家として世に出るための登竜門でもあるサロンに入り込んでいく。1818年11月、ヴェネツィアで『ブルゴーニュのエンリーコ』が成功を収め、いよいよオペラ作曲家として歩み始める。1822年10月、ドニゼッティは『グラナータのゾライデ』の上演のためにローマに旅立つまで、4年間に上演されたオペラは4作だけで、むしろ宗教曲や室内楽曲が多く書かれていた。以降、彼は生まれ故郷のベルガモを離れ、常に転々とした忙しい日々を送ることになる。

油絵（62 cm × 49 cm）MIA 所蔵